

わかやま wakayama

# 新報

SHIMPO

2月 15日  
火曜日

2011年(平成23年)第19425号  
(日曜・祝日・休日翌日休刊)



和歌山店 和歌山市広瀬通丁2丁目26番地  
岩出店 岩出市中通(バイパス入口北角)

発行所 株式会社和歌山新報社

〒640-8043 和歌山市福町49番 和歌山中橋ビル4階  
電話(073)433-6111(代表) <編集部> 電話(073)433-6114  
FAX(073)433-5440 FAX(073)433-9320  
URL http://www.wakayamashimpo.co.jp/ <営業部> 電話(073)433-6113  
Eメール shimpo@titani.ocn.ne.jp FAX(073)433-8111  
郵便振替口座 00920-0-318834番 <販売部> 電話(073)433-6112

<わかやま新報販売所>

和歌山市(紀の川以南) 電話(073)474-3544  
上記以外の地域 電話(073)433-6112 本社販売部

月きめ購読料 1800円(1部売り80円)



## 現場と学生、親密に交流

4年前、和歌山大学は経済学部内に観光学を設置、翌年には学部として独立させ、国立大学法人初の観光学部設置で注目を浴びた。この春、一期生70人が巣立つ。

観光学部が特に力を注いできたのが、地域と学生の交流プログラム(RIP)だ。県内の16市町村を対象に、20年度の開始から3年間・16カ所を実施。学生たちは現場で地域の人々と話し合い、観光客を呼び込むためにはどうすればよいか、地域資源の発掘に取り組んできた。

方策を探った。学生たちは自分の目で見て体験することで地域振興の仕事への関心や理解も深まったという。また同学部の客員教授で作詞家のもず唱平さん指導の下、授業の一環で、日高町の名物、クエをテーマにしたテーマソングを作り同町のイメージアップや地域の活性化に一役買った。歌で観光振興を図ろうというユニークな試みは、豊かな感性を持ち合わせた同学部の学生ならではの。

### 和大観光学部 一期生卒業へ ①



100人以上が受講するなど盛況だ。4月には大学院観光学研究科を開設。5月には木造新校舎の観光学部棟が竣工予定で、教育・研究環境がさらに充実する。

える成果も出てきた。昨年末から3年生や4年生を中心に、論文や映像制作、提案など数々の全国コンクールの入賞の知らせも続いた。

今後の大きな課題は、大学としていかに地域貢献できるかという点。過渡期にある今はまだ手探り状態という。「さまざま

さまざまな市町村や団体からは、観光学部で地域再生を期待する声も多いが、やはり一緒に考えていくのが基本」。学生が現地に出身、さまざまな体験をするには費用がかさむのも悩みの種という。今後は地域交流などで学生たちを受け入れる自治体の理解や協力も不可欠といえる。産官学が連携した地域再生への本格的な道筋づくりはこれから。観光立県を目指す和歌山から、世界的な視野を持って活躍するエキスパートの育成を目指す。

地域再生や観光産業の人材育成を目指す同学部の4年間の軌跡、見えてきた課題は何か。初代観光学部長となり、8月末までの任期が迫った大橋昭一氏(78)に話を聞く。

観光学部について語る大橋学部長